

(6) 歯の健康

目標値達成の状況

達成状況	指標定義	指 標	計画策定時 (H12)	現状値 (H17)	目標値	
					(県)	(国)
	健康	う歯のない3歳児の割合	51.3%	59.6%	72%以上	80%以上
×	行動	過去にフッ化物歯面塗布を受けたことがある3歳児の割合	84.0%	83.2%	94%以上	50%以上
	行動	間食として甘味食品, 飲料を1日3回以上飲食する習慣のある1歳6か月児の割合	40.6%	27.5%	36%以下	-
	健康	中学1年生の1人平均う歯数(DMF歯数)	3.6歯	2.5歯	1.4歯以下	1歯以下
	行動	フッ化物配合歯磨剤を使用している中学1年生の割合	22.7%	33.3%	46%以上	90%以上
	行動	過去1年間に個別的な歯口清掃指導を受けたことのある中学1年生の割合	24.2%	33.5%	50%以上	30%以上
-	健康	35～44歳で4mm以上の歯周ポケットを有する歯周炎に罹患している人の割合	47.2%	-	33%以下	22%以下
-	健康	45～54歳で4mm以上の歯周ポケットを有する歯周炎に罹患している人の割合	67.4%	-	47%以下	33%以下
	健康	中学1年生で歯肉に所見のある人の割合	32.7%	21.2%	22%以下	-
	行動	35～44歳で歯間部清掃用器具を使用している人の割合	29.2%	36.4%	60%以上	50%以上
	行動	45～54歳で歯間部清掃用器具を使用している人の割合	20.7%	29.1%	60%以上	50%以上
-	健康	75～84歳で自分の歯を20歯以上有する人の割合	12.0%	-	20%以上	20%以上
-	健康	55～64歳で自分の歯を24歯以上有する人の割合	35.0%	-	50%以上	50%以上
	行動	55～64歳で過去1年間に定期的歯石除去や歯面清掃を受けたことのある人の割合	20.8%	22.0%	40%以上	30%以上
	行動	55～64歳で過去1年間に定期的な歯科検診を受けたことのある人の割合	11.9%	16.7%	40%以上	30%以上
再 掲						
	行動	喫煙で次の疾患にかかりやすくなると思う成人の割合〔歯周病〕	31.1%	43.2%	100%	100%
	行動	喫煙で次の疾患にかかりやすくなると思う中学生・高校生の割合〔歯周病〕	53.4%	65.0%	100%	-
	環境	禁煙支援プログラムを提供する市町村()内は全市町村に占める割合	13市町村(13.5%)	23市町村(37.7%)	(100%)	100%

領域の全指標の結果

(数字は指標数)

達成()	(計画策定時+目標値)/2以上の伸び()	(計画策定時+目標値)/2未満の伸び()	悪化(x)	不明	指標合計数
2(2)	3(1)	8(7)	1(1)	4(4)	18(15)

()内は, 再掲を含まない指標数

指標は 18 項目です。そのうち、目標達成された指標が 2 項目、順調な改善がみられる指標が 3 項目、若干改善された指標が 8 項目、悪化した指標は 1 項目です。

また、今回の調査で把握できなかった指標が 4 項目です。

今回の調査で把握できなかった 4 項目を除くと、3 歳児のフッ素の歯面塗布の実施者の割合が若干減少した他は、伸びに違いはあっても概ね改善しています。

1) う歯のない 3 歳児の割合 ()

う歯のない 3 歳児の割合は、51.3 % から 59.6 % に若干改善しています。

乳幼児期のむし歯の状況

乳幼児期のむし歯有病者率は、改善されているが、全国平均と比較すると悪い状況である (歯科健康診査結果)

平成 11 年度と平成 16 年度の乳幼児の歯科健康診査においては、1 歳 6 か月児でむし歯有病者率が 48.7 % から 40.4% に減少し、3 歳児で 9.0 % から 5.9 % に減少しています(図 25)。

また、一人平均むし歯数も同様に減少傾向にあります。全国と比較するとむし歯数は多い状況にあります(図 26)。

2) 間食として甘味食品、飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣のある 1 歳 6 か月児の割合 ()

間食として甘味食品や飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣のある 1 歳 6 か月児は、40.6 % から 27.5 % に減少しています。

3) 中学 1 年生の 1 人平均う歯数 (DMF 指数) ()

中学 1 年生の 1 人平均のう歯の数は、3.6 歯から 2.5 歯に減少しています。

4) 歯周病に罹患している人の割合 (H17 は調査を実施していません)

歯周病の状況

歯周病と診断された者が男女とも 50 歳で 4 ~ 6 割を占める (平成 16 年度歯周疾患検診)

歯周疾患検診を行った市町村の検診結果によると、歯周炎の罹患率が男性の 40 歳が 41.4 %、50 歳が 54.2 % であり、女性の 40 歳が 27.5 %、50 歳が 42.4 % でした。歯周炎は、年齢と共に罹患率は高くなり、女性に比べて男性の罹患率が高い傾向にあります(図 27)。

5) 75 ~ 84 歳で自分の歯を 20 歯以上有する人の割合 (参考値)

55 ~ 64 歳で自分の歯を 24 歯以上有する人の割合 (参考値)

平成 16 年度の市町村の歯周疾患健診では、75 ~ 84 歳で自分の歯を 20 歯以上有している者は、28.7 % となり、改善しています(歯周疾患検診集計システムより)。

また、自分の歯を 24 本以上持つ者の割合は、男性の 50 歳が 71.6 %、60 歳が 65.2 % であり、女性の 50 歳が 65.6 %、60 歳が 53.1 % でした(図 28)。

6) 55 ~ 64 歳で過去 1 年間に定期的な歯科検診を受けたことのある人の割合 ()

55 ~ 64 歳で過去 1 年間に定期的な歯科検診を受けたことのある人の割合は、11.9 % から 16.7 % に増加しています。

定期検診の状況

歯科医による定期的なケアを受ける人は少ない

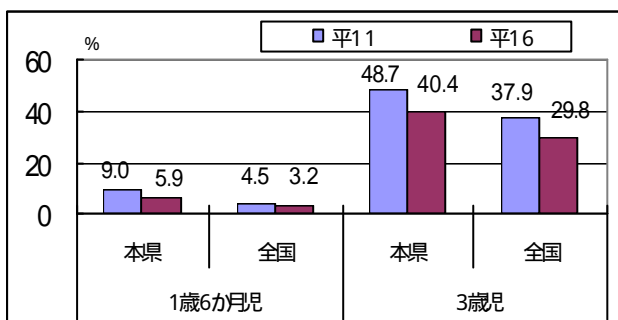
歯科検診のために定期的に歯科医を受診する成人は、計画策定時の 7.7 % から 12.7 % の増加がみられるものの、まだ低い割合です(図 29)。

【関係機関・団体】

- ・市町村は節目検診等，成人歯科保健の取組を行っています。
- ・県・市郡歯科医師会は，歯科衛生士や8020運動推進員等の人材育成及び一般県民に対する普及啓発を幅広く実施しています。
- ・8020運動推進員は，地域に密着したボランティア活動を行い，県民の歯科保健に関する普及啓発に努めています。
- ・栄養士会は，歯の衛生週間のイベント等において歯に関連する食生活指導を行っています。
- ・保育所や幼稚園では，フッ化物洗口や歯みがき指導，規則正しい食習慣の普及に努めています。

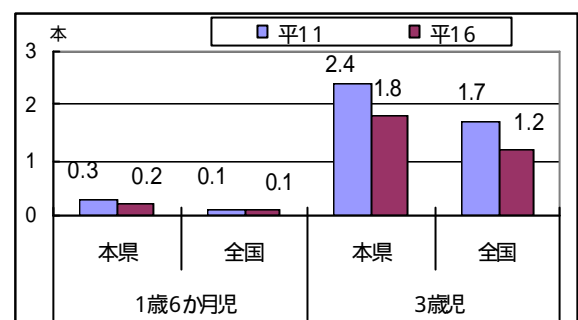
【関係図表】

図 25 乳幼児期のむし歯有病者率の推移



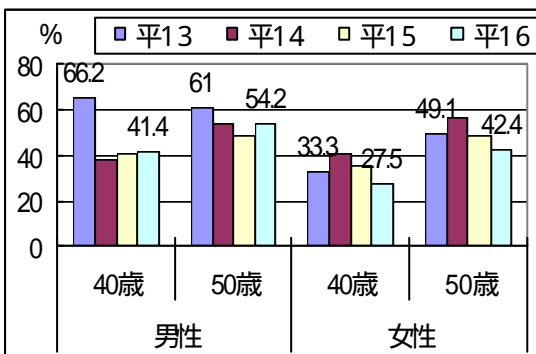
資料：乳幼児歯科健康診査結果

図 26 乳幼児期の一人平均むし歯数（本）



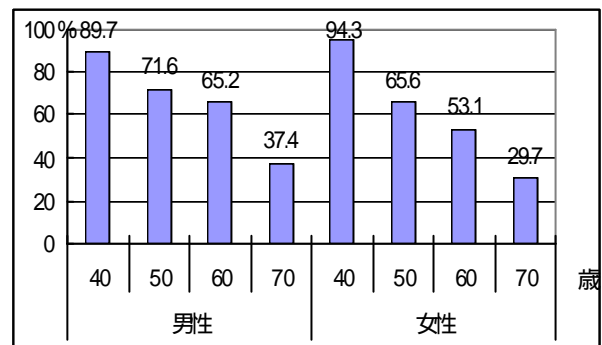
資料：乳幼児歯科健康診査結果

図 27 歯周炎（4mm以上の歯周ポケット有り）の罹患率



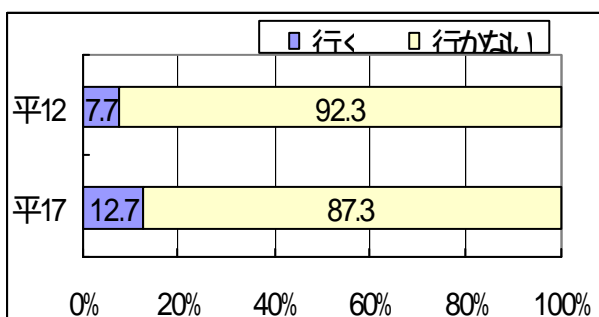
資料：市町村歯周疾患健診結果

図 28 自分の歯を24本以上持つ人の割合(平成16年)



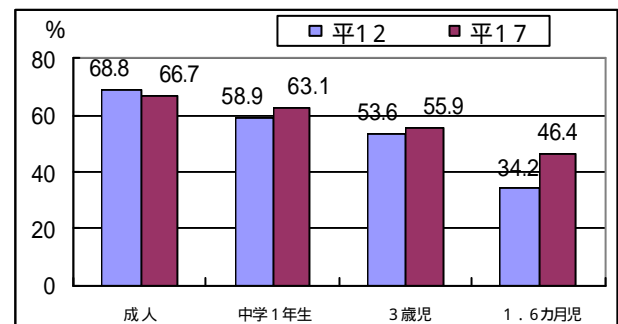
資料：市町村歯周病疾患健診結果

図 29 歯科医での定期的な歯科検診受診率（成人）



資料：歯科保健実態調査結果

図 30 かかりつけ医を決めている人の割合



資料：歯科保健実態調査結果

課題

歯周病の有病者率は、年齢とともに増加していることから、若い頃からの予防対策が必要です。

歯周病に関する正しい知識の普及と適切な口腔内清掃や定期健康診査の受診を促進する必要があります。

乳幼児期や中学生の歯の健康状態は改善傾向にあるものの、まだ全国平均に比べると悪いので、今後、更に改善を図るための取組が必要です。

関係機関・団体は、県民が歯科健診を受ける環境整備を行うことや、定期的な検（健）健診の必要性やフッ素の活用等に関する普及啓発を図る必要があります。

喫煙が及ぼす歯の健康への影響について、正しい知識を普及し、歯周病や口腔がん等の予防の観点から禁煙支援体制を歯科領域でも確立することが必要です。

今後の取組の方向性

1) 県民の行動

歯科保健向上のために、正しい知識を身につける

むし歯や歯周病にならないために、適切な口腔内清掃を行い、80歳で20本の歯の実現を目指す

定期的に歯科医による検（健）診を受ける

むし歯予防のため、積極的にフッ化物を活用し、必要に応じて、歯間部清掃用器具（歯間ブラシ、デンタルフロス等）を使用する

2) 関係機関・団体の取組

県民が歯科保健に関する正しい知識を得ることができるよう普及啓発に努める

関係団体が連携を図り、検（健）診の必要性や受診の方法等の普及啓発を図る

職域等において歯科検(健)診の実施や歯の健康に関する普及啓発を実施する

40歳、50歳の節目等の機会に歯の健康診査を受診できる環境を作り、そのデータを蓄積する仕組みを構築する

フッ素に関する正しい知識や活用方法等の普及啓発を図る

たばこが歯に与える影響について、積極的な知識の普及啓発に努める

ライフステージに応じた歯科保健指導等、歯の健康支援を行う

高齢者施設は、ケア・マネジャー等の介護保健関係者との連携強化を図り、高齢者の口腔ケアの促進など、歯科保健対策の推進を図る

関係団体の連携による「8020運動」の更なる推進を図る

食生活指導における歯科保健の向上を図る

食育の立場からの歯科保健の重要性を啓発する

保育所、幼稚園等乳幼児施設におけるフッ化物洗口の推進を図る

3) 今後重点的に取り組む課題

・ 定期的な歯科検診と8020運動の推進